

## 「親子のふれあいの大切さ」

幼児期における親との「ふれあい」はとても大切です。テレビやおもちゃに頼らず、子どもと目を合わせて話しかけたり、一緒に遊んだりといったコミュニケーションをとる中から、子どもは、親に愛されていることを実感するとともに、人の心の動きを知り、人が自分と違う考えをもっているということを理解します。そのことが、健全な発達や健やかな成長を促します。

今回は、子どもとの関わり方について、普段の子育てを振り返ってみましょう。

### 【関わり方①】

□子どものやることに対して、見守りながら、待つことができますか。

- 散らかった部屋を片付けるように言っても、すぐには片付けてくれません。しかし、「片付けると気持ちよく生活できるよ」と声をかけると、怒らなくても片付けをします。
- どんなことでも、すぐには上達しません。子どもの成長を信じて待つと、だんだんできることが増えていきます。



《ポイント～親の出番を間違えない～》

- ★子どもが越えなくてはならないハードルを親が取り除いてしまったら、子どもは成長しません。子どもが自分で考え、越えるべきことなのか、それとも親がハードルを取り除いてあげる問題なのか、親の出番とそうでないときとをよく考える必要があります。

### 【関わり方②】

□子どもの話にうなずきながら、最後まで話を聴き、子どもの気持ちを受け止めようとしていますか。

- 子どもは、親の愛を確かめたいとなると、「ねえ、ねえ」と話しかけてきます。話をゆっくり聴いてあげると、子どもは安心し、親との愛を深めます。
- 子どもは、話をしながら頭の中でいろいろ考え、思考力を深めています。話をしてあげることも教育ですが、話を聴くことも大事な教育です。



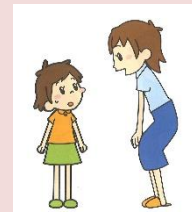
《聴き方のポイント》

- ★子どもが話をしている途中で、注意や教えをしてしまうと、子どもはそれ以上話せなくなってしまいます。子どもの話をうなずきながら聴いてあげよう。
- ★親は「何をしたか、どうしてか」と、事実や理由を聞きたがりです。その時の嬉しい気持ちや、悔しい気持ちも聴いてあげよう。

### 【関わり方③】

□子どもがどのように考えているかを確かめながら、話をしていますか。

- 子どもと話をする場合、「それはどうしてかなあ」などと話が続くような質問をすると、子どもは喜んで話をしてくれます。
- 子どもとの会話は、親子が心を通い合わせるよい機会です。子どもは親と楽しく話ができるとき、子どもの心はうれしくなります。



《話し方のポイント》

- ★親が自分の思いを一方向的に話すのではなく、子どもがどのようなことを考えているのかを確かめながら、子どもの気持ちに寄り添って話をしてあげましょう。
- ★子どもの興味に合わせて話をすることも大事ですが、親の子ども時代の話や失敗談、社会の出来事など、子どもの世界が広がる話もしてあげるといいです。